

行政評価局の調査機能の発揮（例）

◎霞ヶ関の「制度」と現場の「運用」とのギャップ

- ↳ 各府省が想定するシナリオと具体的な業務運営との齟齬
- ✓ 手探りの業務運営、対処に迷う想定外のケース
- ✓ ルールに沿わない、非効率が生じている現場での実態

〔最近の調査例〕

・貸切バスの安全確保対策に関する行政評価・監視（H29.7）  
 法令上、貸切バス事業者には、運賃の上限・下限の届出義務あり  
 ⇨実際には、届出運賃の下限を下回る運賃（下限割れ運賃）で運行していた事業者あり

◎政府の方針と各府省の施策・事業のギャップ

- ↳ 施策・事業レベルで全政府的な対応が不十分
- ✓ 各府省の連携に課題
- ✓ 全政府的な要請（業務効率化・ICT化等）の不徹底

〔最近の調査例〕

・申請手続等の見直しに関する調査（H29.3）  
 政府方針では、手続に係る添付書類は、申請書等の記載事項の  
 真実性を裏付けるためなど必要不可欠なものに限定  
 ⇨必ずしも戸籍謄本等の提出が必要ないと考えられる手続が存在

◎従来の制度・施策と現在の課題・ニーズとのギャップ

- ↳ 時代の変化による新たな課題等への対応が不十分
- ✓ 長期にわたり見直されていない制度の弊害が発生
- ✓ 将来の課題等の顕在化を見据えた対策が不十分

〔最近の調査例〕

・太陽光発電設備の廃棄処分等に関する実態調査（H29.9）  
 将来、使用済み太陽光パネルの排出量が急増する見込み  
 ⇨有害物質情報の提供が十分ではなく、含有の有無を未確認のまま、  
 遮水設備のない処分場に埋め立てた例あり

調査機能の一層の発揮に向け  
 情報収集を行う行政課題を検討

平成31・32年度

多  
様  
性  
・  
包  
摂  
性  
の  
あ  
る  
社  
会  
の  
構  
築

困難に直面する者の自立・社会参加  
 に向けた支援、機会確保

児童虐待の防止等  
 高齢者の居住の安定 等

生  
活  
・  
活  
動  
基  
盤  
の  
確  
保

地域における持続可能な住民サービスの提供

地域公共交通  
 インフラ長寿命化 等

成  
長  
の  
基  
盤  
構  
築  
・  
環  
境  
整  
備

成長の牽引役となる担い手・サービスの創出

農地の集積・集約化  
 労働環境改善  
 地理空間情報 等

生  
活  
の  
安  
全  
・  
安  
心  
の  
確  
保

災害・事故・環境問題による被害・  
 損害の最小化

火山防災  
 土壌汚染対策 等

上記のほか、行政の生産性向上に向けたICTの活用、  
 オープンデータの推進、公共調達、民間活用 等